上毛孤児院月報

第百六拾貳號

發行所 上毛孤兒院
群馬縣前橋市岩神町百四拾九番地
發行兼印刷人 藤卷新助
群馬縣前橋市岩神町百四拾九番地
編輯人 金子尚雄
電話 二四一番
振替貯金口座東京五二九一番

澁澤男爵來訪

中央慈善協會長澁澤男爵には別頁の如く祝賀會の講演を終るや休憩の遑もなく直に商業會議所會頭藤井新兵衛氏、同副會頭江原桂三郎氏及び前橋市教育會長高橋源之助氏等の案内にて來院視察せらる、男爵は出迎へし院關係者の挨拶を受け別室に控へし院兒一同に對し微笑を湛へながら温言もて一場の訓話をせらる、其態度の謙遜にして熱心なる、恰も祖父の愛孫に於けるが如し、同伴の一行感せざるものなし男爵は更に菓子料として金五拾圓を寄附せらる、吾人は男爵の厚意に對して感涙と共に溢る謝意を表したる次第なりき

因に曰ふ寫眞は院の後庭園藝部に於て撮影せるもの前列男爵の右に立てるは藤井會頭次は江原副會頭高橋教育會長、岡部傳平氏男爵の左なるは金子院長次は關口保雄氏(故宮内翁の三男)

救濟事ニ關シ從來盡力スル所尠カラズ今後尚一層淬勵シテ其ノ効果ヲ收メンコトヲ望ム依テ茲ニ助成金ヲ下付ス

大正七年二月十一日

内務大臣正三位勳一等

男爵 後藤新平 印

助成金貳百圓ヲ下付セラレタルヲ以テ例ニヨリ之ヲ農場資金ニ充當セリ謹テ院友各位ニ報告ス

効績狀

救濟ノ事ニ關シ從來盡力スル所尠ナカラス今後尚一層ノ淬勵ヲ望ム依テ茲ニ之ヲ選奬ス

大正七年二月十一日

内務大臣正三位勳一等

男爵 後藤新平

天佑ト人助ト相俟テ今日ノ現狀ニ到達スルヲ得感謝措ク能ハサル所ナリト雖モ然モ事業ノ將來ハ益々多事、本部ノ施設、園藝部ノ擴張、農場ノ發展、數ヘ來レバ任重ク途遠シノ嘆、轉タ切ナルモノアリ、何ゾ圖ラン今日効績狀ヲ下付セラレントハ責任加重若し夫れ同情者各位ノ後援ナクンバ焉ゾ能ク之ニ堪フルヲ得ンヤ敬告以テ鞭韃ヲ冀フ

渋沢栄一と金子尚雄

大正７（１９１８）年３月、上毛孤児院院長金子尚雄が内務省から表彰され、前橋で受賞祝賀会が挙行されました。その際、渋沢栄一が慈善活動に関する講演を行いました。これはその時に撮影された写真です。

なお栄一と金子との接点は、明治２８（１８９５）年東京市養育院長（当時は委員長）だった栄一が、救育事業について群馬県に問い合わせたことでした。この時のやりとりを記した公文書に、金子尚雄が設立した上毛孤児院のことが書かれています（Ａ０１８１Ａ０Ｍ　６００の件名「救育事業ニ関スル件取調方東京市養育院委員長宛回答」）。

『渋沢栄一日記』（渋沢子爵家所蔵）

大正七年（一九一八）

三月十日　雨

午前七時半起床、入浴朝・例ノ如クシテ、午前八時四十分王子発ノ汽車ニテ前橋ニ赴ク、高橋駒次郎・金井滋直二氏同行ス、蓋（けだ）シ地方有志者ノ企望ニ応シテ、同地ニ開催スル、上毛孤児院ノ祝賀会ニ出席シテ、慈善ニ関スル講演ヲ為スタメナリ、十二時過前橋市着、停車場ニハ多数ノ人士来リ迎フ、同市内ノ料理店嬉野ト云フ家ニ抵リ午・ノ饗宴アリ、同地商業会議所ノ主催ニ係ル、畢リテ公園ニ抵リ、公会堂ニ抵リテ一場ノ講演ヲ為ス、来会者数百名、何レモ地方ノ有志者ナリト云フ、畢テ上毛孤児院ヲ一覧シ、院主金子氏ニ会話ス、午後四時半頃前橋発　夜九時頃帰宅（下略）

出典　（公財）渋沢栄一記念財団『渋沢栄一ダイアリー』